

特別  
企画



SAVE THE DATE  
NOV 14-18, 2018 | BOSTON

# 「ウェルネス マージャン」、アメリカに初上陸! BOSTON 国際老年学会に参加

社会貢献の輪を  
広げる!

健康マージャン開催会場へのレガシー

顧客創造とブランド向上を目指して舞台をアメリカに広げる

11月15日にオープンした日中合同のウェルネスマージャンのセッション会場には、異色のテーマに関心を持った関係者が続々と集まった。

講演終了後の質疑では、ウェルネスマージャンの営業と介護の面に関心を示したニューヨークから来たアメリカ婦人、北カロライナ大学の学生は認知症の研究をしており、コラボ研究の可能性を示唆した。また、医学ジャーナリストのアメリカ人女性は、ウェルネスマージャンと政府や自治体が予算計上した協働事業に興味を持ち、熱心にメモを取っていたのか印象的だった。

「GSA2018 年次学術会議」は、アメリカ・マサチューセッツ州ボストンのジョン・B・ハインズ退役軍人記念コンベンションセンターで、2018年11月14日～18日にわたって開催された。既報通り、協会から田嶋智徳・理事長、山口博美・秋草学園大准教授、高橋常行・「麻雀界」編集長、それに西野孝夫・会長代理が出席した。

山口准教授は「日本の超高齢社会問題における健康マージャンの役割とその成果」について、田嶋理事長は「健康マージャンの現場」について、高橋編集長は「超高齢化社会を迎えた日本で健康マージャンがどのように受け入れられているか」について、それぞれ講演・報告をした。国際的に最もユニークなテーマである「健康マージャン」が、最古で最大規模の国際的な学術会議のステージで発表活動を果たしたのは初めてのことで画期的であった。GSA 側においても言うまでもなく初めてのことで、日本健康麻將協会の活動に大きな関心が寄せられ注目された。 \*GSA=Gerontological Society of America



ウェルネスマージャンの未来性について講演中の張俊先生



山口准教授、西野・会長代理、宇野先生、張俊先生

山口准教授、協会特命委員は英語で講演



高橋編集長、協会特命委員



田嶋理事長



熱心な参加者



大学生たち



# ウェルネス マージャン 展示ブースが大盛況!

## 国際老年学会に新鮮かつ異色なテーマが浮上

シンポジウム開催前日の11月14日、幕張メッセのような大ホール、華やかな意匠を凝らした50あまりの展示ブースが一斉にオープンした。国際的な展示ブースは、協会にとって初めての試み。ところが蓋を開けてみると、なんとこの日一番の話題のブースであった。

最初に飛び込んできたのは若い女子学生、続いて大学教授や大学生、医学ジャーナリスト、研究者たちがWMブースを陸続と訪れた。



田嶋理事長



日本ポジティブ心理協会代表の宇野先生（右端）は、英語ペラペラの国際人。来訪者の方々に見事な対応ぶり。

やはり老年学会という学術会議の中では、異色な存在だった。それだけにウェルネスマージャンのプレゼンは、新鮮かつ異色のテーマであったと言えよう。マージャンが高齢者の心と体のケアに役立つ、介護予防や認知症予防に役立つ、というテーマは老年学の研究者にとって新発見であったのだろう。矢継ぎ早に質問が飛んできた。

山口准教授、田嶋理事長、高橋編集長、西野の全員でそれに対処した。さらにこの協会チームに強力な助っ人が加わった。日本ポジティブ心理学協会の宇野代表だ。宇野先生はアメリカでの研究生活が長く、ネイティブ顔負けの英語力の持ち主。ブース来訪者に得意の英語でウェルネスマージャンの魅力と新しい価値を強くアピールした。

この日、新しい第一歩が確実に動き始めた。

アメリカ老年学会が大注目！  
いよいよウェルネスマージャン国際化の幕開けです。アメリカ・中国・日本、世界主要三か国のコラボが見られそうです。



田嶋理事長、高橋編集長は、ウェルネスマージャンのセールスエンジニアのごとく奮闘した。来訪者は強い関心を示した。

山口准教授のパワーは凄いい。得意の英語で来訪者に積極的に対応。



## 夜のレセプション

中国老年学会の劉維林会長と会談。WMと協会活動歴を語る西野・会長代理。



(日本健康麻将協会 会報より 抜粋)